

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101604		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム甲府後屋		
所在地	山梨県甲府市後屋町97-1		
自己評価作成日	平成29年10月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成29年11月2日(木)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

甲府市内の新興住宅街の中にあり、窓際から大国小学校を見渡せる環境があります。今年は小学校との繋がりを強化するために「雑巾の寄付」や「日々の登下校中の散歩(見回り)」を行ってまいりました。また小学校側からも花の苗の寄付やホームのお花見の際にグラウンドを使用させていただいたり、運動会を見学させていただくなど、連携が強化され関わりが増えてきております。また地域とも、ホームの「納涼祭」や「昔遊びイベント(流しそうめん)」を通じて地域の方々に自由で参加いただき、平均20~30名のご近所様がホームの入居者様やホームに触れ合える機会が提供できました。そのおかげもあり、地域でのGHの認知度が高まり、お声かけいただく機会も増え、近隣にある畑で「稲刈り体験」もさせていただきました。また当事業所は介護度が高い中ケアを提供しておりますが、生活の中でのリハビリを通じ今年度だけで平均介護度が-0.5減らすことができました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、2階建て2ユニットの建物で、市郊外に広がる閑静な住宅地の中にある。近隣は複合住宅も多く、地域との交流や近所付き合いの機会を作り難い状況であるが、隣接した小学校との関係作りや地域ボランティアの受け入れ、敷地内にカフェコーナーを設け地域にも開放するなど事業所の工夫と努力で、地域の方と利用者との自然な交流を生んでいる。法人組織は全国280か所を超える介護サービス事業所を展開しており県内でも7か所のグループホームがある。法人全体で介護サービス・技術の質の向上を目指しており様々な研修を通じ職員の意識を高めている。職員はその人が、生き生きできる場面を引き出せるよう、その人らしさを支える支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **愛の家グループホーム甲府後屋**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1フロア)	ユニット名(2フロア)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人での理念を毎朝の朝礼で唱和 また、事業所・フロアとしても毎期ごとビジョンを掲げ掲示し、共通理解を深めるようにしている。	法人での理念を毎朝の朝礼で唱和 また、事業所・フロアとしても毎期ごとビジョンを掲げ掲示し、共通理解を深めるようにしている。	法人全体の理念を朝礼で唱和している。他に、事業所独自で1年ごとのビジョンを全職員と話し合い作っている。またユニットごとの現状に即した目標を決め、意思統一を図りながら、全職員の介護スキルの向上を目指している。個々の課題を毎月の研修テーマに組み入れるなど、共有・実践に繋げる努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域方の中でボランティアとして毎朝清掃業務を通じて、ご利用者様の状況やホームを知ってもらう機会を作っている。 また理解を深めるために地域の方と入居者様に関わりあえるイベントを考案し提供している。	地域内にある野菜の自動販売機で野菜を2日に1回購入しホームで入居者様と雑漬けを作っている。 また理解を深めるために地域の方と入居者様に関わりあえるイベントを考案し提供している。	地域のボランティアが居室も含め事業所内の清掃に訪れている。地域の子供を対象に「むかし遊びの会」を開き、けん玉、コマ遊びを利用者といっしょに楽しんでいる。事業所敷地内にテーブル、イスを備えて地域の方に自由に使ってもらい、利用者との交流の機会にするなど、地域に開かれた存在であることを目指し、さまざまな取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に事業所や取組を知っていただけるような、入居者様と関わりあえるイベントを考案し実行している。 事業所の駐輪場のスペースを活かし「愛の家カフェ」を開き、地域の方々との交流の場がある	地域の方に事業所や取組を知っていただけるような、入居者様と関わりあえるイベントを考案し実行している。 事業所の駐輪場のスペースを活かし「愛の家カフェ」を開き、地域の方々との交流の場がある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員さんのご提案にて、お正月の際に獅子舞をホームに呼び、長寿を祈願している。 また文化祭や地域イベント参加の声掛けを頂いている。 包括支援センター主催の研修に参加し職員のスキルアップに努めている。	民生委員さんのご提案にて、お正月の際に獅子舞をホームに呼び、長寿を祈願している。 また文化祭や地域イベント参加の声掛けを頂いている。 包括支援センター主催の研修に参加し職員のスキルアップに努めている。	運営推進会議は2か月に1回、平日の午後で開催している。開催通知は議題・内容も記し、全家族に郵送し参加を求めている。事業所より現況を報告の後、地域、市からの情報を提供してもらい意見・提案を聞いている。地域代表より災害についての対処方法や地域の正月行事への関わりについての提案があり、事業所へ獅子舞を呼ぶことに繋がった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症ボランティア支援の実習を受け入れ施設として受け入れている。またボランティアの介入が行われている。 認知症サポーター講座を年1回開催している 高齢者福祉課のボランティアの利用をしている	認知症ボランティア支援の実習を受け入れ施設として受け入れている。またボランティアの介入が行われている。 認知症サポーター講座を年2回開催している 高齢者福祉課のボランティアの利用をしている	市が開催する認知症ボランティア養成講座の実習先として、実習生を受け入れを行っていたり、市の高齢者福祉課が進めている「ふれあい介護サポーター」のボランティア活動場所として協力している。介護相談員の受け入れや、市開催行事への参加など市との連携を図り、迅速に情報を得ている。様々な機会を通して、事業所の実情や方針を知ってもらい協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1度、「虐待・不適切ケア、身体拘束」のチェックシートを利用して、現状の自己評価を行っている。 また4半期に1度研修を通じて、職員への意識づくりを行っている	2か月に1度、「虐待・不適切ケア、身体拘束」のチェックシートを利用して、現状の自己評価を行っている。 また4半期に2度研修を通じて、職員への意識づくりを行っている	3か月に1回の事業所内研修や社内研修などで学習し、全職員は身体拘束について正しく理解している。日頃から各フロアで振り返りを行い、2か月ごとにチェックシートを活用し、職員一人ひとりの意識を高めている。利用者の意思を大切にすることを原則として利用者を尊重した支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様	上記同様		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	幹部職を中心とした職員が外部研修に参加する機会を作っている。 また事業所ないでも最低年1度研修の機会を作っている	幹部職・ケアマネを中心とした職員が外部研修に参加する機会を作っている。 また事業所ないでも最低年2度研修の機会を作っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前アセスメント時、契約時、入居時に契約書・重要事項説明書、また重度化した場合・看取りの指針の用紙を通じ、説明を行い、不明点や疑問点を随時回答いただき、双方の同意のもとにご入居いただいている	入居前アセスメント時、契約時、入居時に契約書・重要事項説明書、また重度化した場合・看取りの指針の用紙を通じ、説明を行い、不明点や疑問点を随時回答いただき、双方の同意のもとにご入居いただいている		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **愛の家グループホーム甲府後屋**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1フロア)	ユニット名(2フロア)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居前アセスメント時には、ご本人だけではなくご家族様にも独自の用紙を使い、ニーズや想いを確認している。また入居後にはケアプランの更新前には必ずニーズや想いが反映できるように聞き取りをしている。 その他、毎月様子をお便りを使いこまめに伝え、面会が無くて様子わかるように工夫している	入居前アセスメント時には、ご本人だけではなくご家族様にも独自の用紙を使い、ニーズや想いを確認している。また入居後にはケアプランの更新前には必ずニーズや想いが反映できるように聞き取りをしている。 その他、毎月様子をお便りを使いこまめに伝え、面会が無くて様子わかるように工夫している	家族の意見・要望は面会の際や会社本部のアンケートを通じてや聞いている。車いすの大きさや、ダイニングテーブルの高さへの要望があり、新しくテーブルを購入するなど直ぐに要望を反映した。利用者の要望も汲み取るよう努めており、「糠漬けをしたい」「外出したい」などの要望にもすぐに応えた。利用者が糠漬け作りを楽しんでおり、また敷地内にカフェコーナーを整備し散歩後の休憩場所を兼ねて、地域の方と交流できるスペースを作った	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議・全体会議を通じ業務提案をもらえる機会を提供している。 日々としても毎日上長への一日の申し送りの時間を業務として作り、意見が聞けるようにしている。 その他として6か月に1回は個別面談を実施。	フロア会議・全体会議を通じ業務提案をもらえる機会を提供している。 日々としても毎日上長への一日の申し送りの時間を業務として作り、意見が聞けるようにしている。 その他として6か月に2回は個別面談を実施。	日々の支援の中での職員の気づき、提案は毎日の申し送りなどで出されている。また、会社による職員アンケートでも職員の意見・希望を聞いている。研修内容の希望、介護技術講習、利用者への対応方法など多岐にわたり、その都度話し合い意見を反映している。また、業務上の負担についての要望にも、業務の流れを見直すなど柔軟に意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の業務の中に一日の申し送りの時間を設けており、日々の努力や工夫や課題を発信できる機会を作っている。 また日々のケア業務以外でも運営に関わる機会を役割として作り、積極性を評価している	日々の業務の中に一日の申し送りの時間を設けており、日々の努力や工夫や課題を発信できる機会を作っている。 また日々のケア業務以外でも運営に関わる機会を役割として作り、積極性を評価している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記同様、日々の申し送りで随時アドバイスや指導を行っている。 その他、最低毎月1回は研修の機会を提供したり、他事業所と関わる機会を社内だけではなく、GH協会を活用し作っている	上記同様、日々の申し送りで随時アドバイスや指導を行っている。 その他、最低毎月2回は研修の機会を提供したり、他事業所と関わる機会を社内だけではなく、GH協会を活用し作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に参加し、定期的に研修へ参加している。また「やさしい手」や「ツクイ」などの同業他社との合同のイベントを企画し、GHに固執しない発想やアイデアが生まれるような支援を行っている	GH協会に参加し、定期的に研修へ参加している。また「やさしい手」や「ツクイ」などの同業他社との合同のイベントを企画し、GHに固執しない発想やアイデアが生まれるような支援を行っている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行う。 アセスメントの際にはご本人の都合が悪くなければなるべく、その時のご本人様の生活状況の場に赴き、状況の把握を務めるように支援している。	入居前にアセスメントを行う。 アセスメントの際にはご本人の都合が悪くなければなるべく、その時のご本人様の生活状況の場に赴き、状況の把握を務めるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前アセスメントの際には、ご本人だけではなく、ご家族とも面談を行い、ニーズの把握や生活状況の把握・困っていることの把握ができるように努めている	入居前アセスメントの際には、ご本人だけではなく、ご家族とも面談を行い、ニーズの把握や生活状況の把握・困っていることの把握ができるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、「往診サービス(内科・歯科・皮膚科)」や「在宅マッサージ」「福祉用具の活用」「地域資源」の利用を提案できるように、普段から各所との関係づくりを行っている	必要に応じて、「往診サービス(内科・歯科・皮膚科)」や「在宅マッサージ」「福祉用具の活用」「地域資源」の利用を提案できるように、普段から各所との関係づくりを行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事・趣味を入居者様の日課として日々の生活に取り入れ、職員から提供し同じ時間を共有できるような体制にしている。 また同じ食事をとるようにしている	家事・趣味を入居者様の日課として日々の生活に取り入れ、職員から提供し同じ時間を共有できるような体制にしている。また同じ食事をとるようにしている。 必要に応じて、喫煙や飲酒もご入居者様と職員が共有できるようにしている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **愛の家グループホーム甲府後屋**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1フロア)	ユニット名(2フロア)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療面や生活のニーズ実現方法については随時ご家族に相談・報告をし、共有している。イベントや外出の際にはご協力を依頼している。ご家族と出かける機会を促している(外食・ドライブが中心)	医療面や生活のニーズ実現方法については随時ご家族に相談・報告をし、共有している。イベントや外出の際にはご協力を依頼している。ご家族と出かける機会を促している(外食・趣味(パチンコ等)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	必要に応じて、ホーム外での活動の提供や、自宅への外出を促している	必要に応じて、ホーム外での活動の提供や、自宅への外出を促している	入居前のアセスメント時に本人・家族からの情報を独自のシートに記入し、その人の生活背景を把握している。入居後の暮らしの中でも思いやニーズを汲み取り、それに向けての支援に努めている。お墓参り、面会の取次ぎ、馴染みの神社へのお詣り、パチンコに行くなど家族と協力して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別ニーズの提供の際には、他者へも声掛けし、馴染みの数名でそのサービスが提供できるようにしている。ホーム内のレイアウトを馴染めるようにしている。フロア内だけでなくホーム間で入居者様同士で行える趣味を探し生活に取り込んでいる	個別ニーズの提供の際には、他者へも声掛けし、馴染みの数名でそのサービスが提供できるようにしている。入居者様の介助の際には他入居者様に手伝いを依頼している。フロア内だけでなくホーム間で入居者様同士で行える趣味を探し生活に取り込んでいる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もイベントへの参加の案内や年賀状等を通じて関係が継続できるように努めている	退去後もイベントへの参加の案内や年賀状等を通じて関係が継続できるように努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のカンファレンス前に幹部職の会議を行い、日々のニーズの精査を行っている。またカンファレンスではケアプラン更新者だけでなく、日々の中でニーズや状況が変わっている方についても話し合うような機会をつくっている	毎月のカンファレンス前に幹部職の会議を行い、日々のニーズの精査を行っている。またカンファレンスではケアプラン更新者だけでなく、日々の中でニーズや状況が変わっている方についても話し合うような機会をつくっている	毎月のカンファレンスの事前に管理者・リーダー会議を開き、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向を確認して本人の意志決定を尊重している。全職員が利用者同士の会話や入浴中の言葉にも意識を払い、本人の意向を汲み取るよう努めている。意思疎通が困難な方であっても、表情や態度で察したり、家族からの情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には生活情報を記入していただきご家族からもご本人の情報を把握しています。また可能な限り入居前にご本人が生活していた環境に訪問させていただき状況の把握に努めている	入居時には生活情報を記入していただきご家族からもご本人の情報を把握しています。また可能な限り入居前にご本人が生活していた環境に訪問させていただき状況の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	23の項目同様	23の項目同様		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	23の項目同様	23の項目同様	入居時、本人・家族から、生活歴、思いや希望を聞き事業所独自のシートに記入している。そこから見えるニーズを反映した介護計画を作成している。1か月後にアセスメント・カンファレンスを行い職員・看護師・医師の意見を反映し、3か月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実践記録を日々チェックして評価しやすようにしたモニタリングを行っている。また生活記録の他にバイタル等の個別記録や職員の気づきを共有するノートを活用して随時介護計画を見直している	ケアプランの実践記録を日々チェックして評価しやすようにしたモニタリングを行っている。また生活記録の他にバイタル等の個別記録や職員の気づきを共有するノートを活用して随時介護計画を見直している		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **愛の家グループホーム甲府後屋**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1フロア)	ユニット名(2フロア)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会等の社会資源の活用</li> <li>地域イベントへの参加(拾い出し)</li> <li>業務フローの適時見直し</li> <li>外部のサービスの活用(訪問販売・福祉用具・マッサージ等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会等の社会資源の活用</li> <li>地域イベントへの参加(拾い出し)</li> <li>業務フローの適時見直し</li> <li>外部のサービスの活用(訪問販売・福祉用具・マッサージ等)</li> </ul>		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会や民生委員との関係づくり</li> <li>小学校、幼稚園等との関係づくり</li> <li>地域のイベントの把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会や民生委員との関係づくり</li> <li>小学校、幼稚園等との関係づくり</li> <li>地域のイベントの把握</li> </ul>		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別のニーズにより、主治医を決定している。(人によっては「往診サービス(どこでも可)」「通院」「医療を利用しない」など様々で提供	個別のニーズにより、主治医を決定している。(人によっては「往診サービス(どこでも可)」「通院」「医療を利用しない」など様々で提供	本人・家族の希望する医師の医療を受けている。かかりつけ医の受診は家族対応だが、都合によって事業所が支援している。医療情報は書面にて渡し、受診結果は家族と共有している。往診医は月2回ほど訪問があり、受診結果を書面にて家族に知らせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問看護シートの工夫</li> <li>皮膚疾患等については画像をメールでやり取りをし、状況をわかりやすく伝え指示やアドバイスを得ている</li> <li>定期的に処方箋やアセスメント表を渡し、ご本人の状況提供をおこなっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問看護シートの工夫</li> <li>皮膚疾患等については画像をメールでやり取りをし、状況をわかりやすく伝え指示やアドバイスを得ている</li> <li>定期的に処方箋やアセスメント表を渡し、ご本人の状況提供をおこなっている</li> </ul>		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>受診時に適切な情報提供ができるようにサマリーを定期的に更新している</li> <li>病院SWへ定期的に訪問して関係作りや情報提供をおこなうようにしている</li> <li>入院中定期的な病院への面会を実施</li> <li>入退院時はリーダー職以上が関わるようにしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受診時に適切な情報提供ができるようにサマリーを定期的に更新している</li> <li>病院SWへ定期的に訪問して関係作りや情報提供をおこなうようにしている</li> <li>入院中定期的な病院への面会を実施</li> <li>入退院時はリーダー職以上が関わるようにしている</li> </ul>		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居前に当社同一の書式にて「受け入れ可能な範囲と、受け入れが難しくなる場合」「看取り可能な状況・不可能な状況」を伝え同意をしている。</li> <li>ご本人の状態に応じてご家族様と面談している</li> <li>定期的に職員に向けた研修を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居前に当社同一の書式にて「受け入れ可能な範囲と、受け入れが難しくなる場合」「看取り可能な状況・不可能な状況」を伝え同意をしている。</li> <li>ご本人の状態に応じてご家族様と面談している</li> <li>定期的に職員に向けた研修を実施</li> </ul>	入居時、家族・本人に会社の定めた看取りの指針、事業所のでき得ることなどを丁寧に説明している。入居後、状況の変化があるごとに家族、医師、職員と話し合う場面を持ち、対応方針の共有化を図っている。医療連携体制も整っており、職員研修も定期的に行っている。ここ1年間に看取り支援はないものの、以前に看取り支援を行った経験はある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に研修を実地</li> <li>普通救急救命の研修を定期的実施</li> <li>マニュアルをフロアごとに置いている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に研修を実地</li> <li>普通救急救命の研修を定期的実施</li> <li>マニュアルをフロアごとに置いている</li> </ul>		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2～3回の避難誘導訓練をおこなう</li> <li>避難訓練時には1年に1回は消防隊員の参加要請をこない、レクチャーを受けている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2～3回の避難誘導訓練をおこなう</li> <li>避難訓練時には1年に1回は消防隊員の参加要請をこない、レクチャーを受けている</li> </ul>	年に2～3回の避難訓練を行っている。内1回は消防署の協力を得て初期消火、利用者の状況に合わせた避難方法などを、より具体的な指導を受けている。また、DVDを使用し学習している。夜間を想定した利用者の避難・誘導訓練を行い、火災、水害に対応したマニュアルも作成してある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケアについて定期的にチェックシートを通じて、注意喚起を行い、意識してケアに当たれるようにしている	不適切ケアについて定期的にチェックシートを通じて、注意喚起を行い、意識してケアに当たれるようにしている	不適切ケアチェックシートを使い、職員一人ひとりの意識を高めている。チェックシートには入室時の態度、名前の呼び方、利用者所有物の管理など具体的な項目があり、職員自身が振り返ることができる指標となっている。日常の言葉かけにも配慮し、不適切な場面があれば職員同士で注意し合っている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **愛の家グループホーム甲府後屋**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1フロア)	ユニット名(2フロア)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	想いやニーズを共有できるように「申し送りノート」をフロアで活用している。	想いやニーズを共有できるように「申し送りノート」をフロアで活用している。 入居者様にに応じて、行動に選択しを付けて、ニーズの把握や実行に心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝礼時に予定を決めて、全員の入居者様でなくその日の主役を決めた生活の組み立てができるようにしている。 また全員にその機会が公平にいきたるようになっている	朝礼時に予定を決めて、全員の入居者様でなくその日の主役を決めた生活の組み立てができるようにしている。 また全員にその機会が公平にいきたるようになっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣を最低5セット以上用意していただき、またイベントごとや外出時の際にはその状況に適した服装もご家族様へ依頼し持ってきていただくか用意している。 毎朝整容の時間を確保している。	着衣を最低6セット以上用意していただき、またイベントごとや外出時の際にはその状況に適した服装もご家族様へ依頼し持ってきていただくか用意している。 毎朝整容の時間を確保している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	必要に応じて福祉用具や食事の場所を変更している。 食事形態を随時見直し、情報を共有できるように用紙を使って共有している。 調理の作業としてできる作業は入居者様に行ってもらっている	食事形態を随時見直し、情報を共有できるように用紙を使って共有している。 調理の作業としてできる作業は入居者様に行ってもらっている	メニューは会社本部の管理栄養士が作成しているが、事業所で利用者の希望や行事に合わせて変更している。 1階に厨房があり調理職員が調理し、入居者は下ごしらえや片づけなど職員と一緒にやっている。また、ご飯、味噌汁などはユニットごとに調理している。外食は月に1回以上出かけ、店屋物を利用することもある。食事は職員も同じものを利用者と一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録類で必ずチェックして把握している。 必要に応じては医療機関に相談し、適切な医療を受けていただけるように支援 また嗜好品もプラスアルファとして提供の機会を作っている	記録類で必ずチェックして把握している。 必要に応じては医療機関に相談し、適切な医療を受けていただけるように支援 また嗜好品もプラスアルファとして提供の機会を作っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを提供 毎週1回の訪問歯科を適宜利用している また口腔状況や嚥下状況により歯ブラシ以外の口腔ケアを実施	毎食後の口腔ケアを提供 毎週2回の訪問歯科を適宜利用している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの周期を把握するようにチェック表を活用 便秘予防の為に乳酸菌(FK23、ヤクルト)をサービスタとして提供 個々にあった排泄用具(リハパンを含む)を利用している	トイレの周期を把握するようにチェック表を活用と 排泄動作のアセスメントを取り、自立を促す支援をしている 便秘予防の為に乳酸菌(FK24、ヤクルト)をサービスタとして提供 個々にあった排泄用具(リハパンを含む)を利用している	排泄子エック表に記録し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。排泄のパターンや習慣に応じた個別の排泄支援を行うことで、4人の利用者がリハビリパンツから布パンツの使用となった。また、排便についても、できる限り薬に頼らない排泄ができるよう工夫している。排泄用具の使用は、時間帯や種類を検討し、その都度見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に乳酸菌(FK23、ヤクルト)をサービスタとして提供 個々に合わせて医療機関に相談し、頓服薬を使用している	便秘予防の為に乳酸菌(FK24、ヤクルト)をサービスタとして提供 個々に合わせて医療機関に相談し、頓服薬を使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴方法を個々に沿って検討し必要に応じて福祉用具を活用している。 体調に合わせて、入浴時間等を臨機応変に対応。	体調に合わせて、入浴時間等を臨機応変に対応。 入浴が不可の際には清拭等の代用行為を行い、無理に入浴への促しをしないように配慮	入浴準備は毎日してある。本人の自己決定を大切に、無理強いすることなく柔軟に対応している。温泉に行きたいという希望に職員がいっしょに行き入浴支援を行ったこともある。ゆったりした入浴は利用者や職員のコミュニケーションの機会であり、また利用者同士の助け合い(ドライヤーかけなど)の場となっている。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 **愛の家グループホーム甲府後屋**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1フロア)	ユニット名(2フロア)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝や消灯時間を決めず個々の生活に合ったリズムで入眠を促している。 日中の活動や日光浴等を通じ、昼夜逆転の防止や夜間の安眠への対応をしている	就寝や消灯時間を決めず個々の生活に合ったリズムで入眠を促している。 日中の活動や日光浴等を通じ、昼夜逆転の防止や夜間の安眠への対応をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・マニュアルの作成と徹底 ・処方箋や受診の様子の情報共有 ・アセスメントの機会作り ・薬のセット担当者を作っている	・マニュアルの作成と徹底 ・処方箋や受診の様子の情報共有 ・アセスメントの機会作り ・薬のセット担当者を作っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・定期的な外出や外泊をする方がいる ・買い物の機会の確保(外+訪問販売) ・畑や庭・花壇の活用 ・外気浴が出来やすい環境づくり ・家事の分担	・定期的な外出や外泊をする方がいる ・買い物の機会の確保(外+訪問販売) ・畑や庭・花壇の活用 ・外気浴が出来やすい環境づくり ・家事の分担		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・外出+夕食の機会を定期的にもうけている ・消耗品については備え付けを用意しない ・お小遣いの管理と理解に努めている ・ご家族の協力による定期的な外出や外泊の提供 ・フロアの行き来の自由化	・外出+夕食の機会を定期的にもうけている ・消耗品については備え付けを用意しない ・お小遣いの管理と理解に努めている ・ご家族の協力による定期的な外出や外泊の提供 ・フロアの行き来の自由化	同一法人内の、他グループホームの利用者との交流を図り、将棋、マージャンなども楽しんでいる。外出・夕食は月1回、計画的に行い、他に、買い物にも出かけている。そのために意識的に消耗品の備え付けを控え、利用者一人ひとりに個別の外出支援の機会を作るよう工夫をしている。利用者の出費額は家族と話し合い決められている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・外出時には必ず財布を持って行く(職員が個々の物を一括で) ・財布に入れる金額については申告制にして職員が入居者様のニーズの把握をできるようにしている ・ご家族のご理解で金庫以外で財布やお金を持っている方がいる	・外出時には必ず財布を持って行く(職員が個々の物を一括で) ・財布に入れる金額については申告制にして職員が入居者様のニーズの把握をできるようにしている ・ご家族のご理解で金庫以外で財布やお金を持っている方がいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・定期的なご家族とのTELのやり取りをしている方がいる ・原則ホームのTELは自由に使用可 ・郵便物にて物を貰った際にはお礼のTELを実施	・定期的なご家族とのTELのやり取りをしている方がいる ・原則ホームのTELは自由に使用可 ・郵便物にて物を貰った際にはお礼のTELを実施		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・物が多い環境をつくっている ・掲示物については意図をもって掲示する ・日中はカーテンを開けておくようにしている ・常に音が流れる環境をつくる ・湿度・温度計の使用と活用(加湿器・冷暖房の使用)	・物が多い環境をつくっている ・掲示物については意図をもって掲示する ・日中はカーテンを開けておくようにしている ・湿度・温度計の使用と活用(加湿器・冷暖房の使用)	利用者自身が、淋しき、孤独感を感じるような殺風景な環境を避けるために、親しみの持てる雰囲気づくりに努めている。会話が困難な利用者の多いユニットでは、音楽を流したり、また一人で寛げる場所を用意するなどの工夫をしている。廊下、ホールの壁面は利用者の作品を飾り、その人が自信を取り戻せるよう気配りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファや椅子を多くし座れる場所作り ・テーブルの配置を定期的に見直し ・役割や活動の提供の機会を多く作っている ・DVDや音楽の活用	・ソファや椅子を多くし座れる場所作り ・テーブルの配置を定期的に見直し ・役割や活動の提供の機会を多く作っている ・DVDや音楽の活用		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・なるべく備え付けを少なくして、以前より使っていた物を持って来て頂いている ・居室の配置を人によって変えている ・居室内に椅子やテーブルを用意して貰っている ・持ち込み禁止物をなるべく減らしている(火器・金品)	・なるべく備え付けを少なくして、以前より使っていた物を持って来て頂いている ・居室の配置を人によって変えている ・居室内に椅子やテーブルを用意して貰っている ・持ち込み禁止物をなるべく減らしている(火器・金品)	クーラー、カーテンが備え付けである。利用者が馴染みの品を持ち込んで、その人の気に入った居室に整えてある。家族写真、かつて作った手作りの品、仏壇などが置かれ、本人が安心して寛げるよう配慮している。周囲に気兼ねなく、面会の人との会話を楽しんでもらうため、居室にイス、テーブルの用意を家族に依頼している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・庭や、各フロア、キッチン、事務所への行き来の自由 ・物が多い環境をつくるように心がけている ・各箇所に座れる場所をつくるようにしている ・掲示物の工夫を行っている	・各フロア、キッチン、事務所への行き来の自由 ・物が多い環境をつくるように心がけている ・各箇所に座れる場所をつくるようにしている ・掲示物の工夫を行っている		